

坂田小学校 第1学年

年間を通して身に付けさせたい読みの力	お話のだいたいをとらえる力
--------------------	---------------

※太枠は重点指導事項

教材名		はなのみち	おおきなかぶ	くじらぐも	たぬきの糸車	ずうっと、ずっと大すきだよ
観点		観点の詳細		思い浮かべながら読む	好きなところを見つける	読んで感じたことを話す
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 物語全体の様子をつかむ。		ロシア民話	時 場所	
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり		登場人物はどんどん小さくなっていく	登場人物	
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）		起承転結 4部構成 くり返しがおもしろい	場所で3つの場面に分ける。 校庭→空→校庭	
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 物語の事件や出来事をつなぐことでまとめることができる。		おじいさんが大切に育てた おおきなかぶをみんなで力を 合わせて抜く話。	くじらぐもとの出会い→空 の旅→別れ	
5	視点	語り手（地の文を語る人）、会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）		語り手 会話文や行動	会話文 誰の話した言葉か確認する。	
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ・オノマトペ 作者の強調したいことが分かる。		リズムのよさ（音読）	くり返しの効果を読み取る テンポ	
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）		ねずみの登場 ひっぱる力は弱い 小さくなる ねずみがすごい？	飛び乗る様子をみんなで動作化して想像する。	
8	変容	中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由		人物は小さく弱くなるが、 ひっぱる力はどんどん大きくなることに気づく。	登場人物の位置関係をつかむ	
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い 作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。		おおきなかぶ おじいさんのねがい あまいあまいかぶになれ。	日常から非日常へ連れ出す アイテム	
10	主題	作者が物語の中で伝えたいことは何か。 自分の経験と比べながら読む。		みんなが一生懸命に力を合わせた結果、かぶが抜けた。	雲を実際に見て、何に見えるか想像して楽しむ	

年間を通して身に付けさせたい読みの力	中心人物の変容を読み取る力
--------------------	---------------

※太枠は重点指導事項

教材名			ふきのとう	スイミー	お手紙	わたしはおねえさん	スーホの白い馬
観点		観点の詳細	お話を読み役に分かれて音読しよう	お話を読んで紹介しよう	想像したことを音読劇で表す	自分と比べて感想を書く	読んで感じたことを伝える
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 物語全体の様子をつかむ。		はじめの設定に伏線がある スイミーの特徴 からす貝よりもまっくろ	場所 出来事		
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり		登場人物・中心人物 対人物 スイミーのこだわり（みんなで楽しく暮らす）	がまくん「とてもふしあわせな気持ちになるんだよ。」→友だちの優しさに触れて変わった かえるくん かたつむりくん		
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）		始め・中・終わり スイミーがしたことやいる場所 で分けられる。	がまくんの家 かえるくんの家 がまくんの家		
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 物語の事件や出来事をつなぐことでまとめることができる。		スイミーが一匹だけ体が黒いことと、たくさんの知恵を出すことで、大きな魚を追い出し楽しく暮らす話	お手紙がこなくてふしあわせな気持ちだったがまくんが、かえるくんにお手紙を書いてもらったことによって、とてもしあわせな気持ちになった話。		
5	視点	語り手（地の文を語る人）、会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）		語り手	二人の会話で構成されている		
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ、オノマトペ 作者の強調したいことが分かる。		体言止め 倒置法 比喩 リフレイン	くり返し 対比		
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）		スイミーが元気になる原因→海の様子	がまくんが気づいたところ かえるくんがお手紙を書いたところ	じっと。ずっと。 「あはは。」	
8	変容	中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由		クライマックス 山場 「ぼくが目になろう。」 自分の個性を生かす	二つの「ああ」の読み取り		
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い 作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。		中心人物	お手紙	おねえさんになりたいというすみれちゃんのこだわり	
10	主題	作者が物語の中で伝えたいことは何か。 自分の経験と比べながら読む。		個性「ぼくが目になろう」 協力「みんなで泳ぐ」 知恵「うんと考えた」	気持ちを共有すること 親友とは何か。		

坂田小学校 第3学年

年間を通して身に付けさせたい読みの力	中心人物の変容を読み取る力
--------------------	---------------

※太枠は重点指導事項

教材名		きつつきの商売	まいごのかぎ	ちいちゃんのかげおくり	三年とうげ	モチモチの木	
観点		観点の詳細	場面や登場人物の気持ちを想像する	登場人物の変化に気をつけて読む	物語に対する感想をもつ	組み立てを捉える	登場人物の性格を捉える
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 物語全体の様子をつかむ。	場所 天気	場所 出来事	時 場所	時 場所	時 場所
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物 対人物
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	2つの場面	場面 くり返し ファンタジーの世界	場面 くり返し	起承転結	起承転結
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 物語の事件や出来事をつなぐことでまとめることができる。	自然の音の良さに気づきみんなを幸せに	落ちこんでいたりいこが前向きになる	戦争で家族とはぐれたちいちゃん	言い伝え・迷信を知恵で乗り切る	おくびょうな豆太が灯を見る
5	視点	語り手（物語の地の文を語る人）、会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	語り手	語り手	語り手の語りを中心とした読み	語り手	語り手から見た豆太 豆太の視点
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ、オノマトペ 作者の強調したいことが分かる。	擬音語 擬態語	比喩 擬音語 擬人法	空の叙述の変化（色） 体言止め	情景描写 心情描写 行動描写	情景描写 カタカナ
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	自然の音	みんなも走ってみたかった	一人でかげおくりをするちいちゃん	トルトリ（知恵者）の登場	モチモチの木に灯がついている
8	変容	中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	2つの場面を比べる	最初と最後を比べる	第一場面と第四場面を比較	ふとんから出る様子 対照	弱虫でもやさしけりゃを比較
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い 作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	きつつきにぴったりの店は何か	まいご=答えがない かぎ=好奇心	題名「の」が表していること	民話 物語の舞台	豆太がつけた木の名前 豆太のこだわり
10	主題	作者が物語の中で伝えたいことは何か。 自分の経験と比べながら読む。	本質に触れること	成長 気づき 試みること	家族、愛情 身近な幸せ 平和	知恵 考え方	勇気 優しさ

坂田小学校 第4学年

年間を通して身に付けさせたい読みの力	
--------------------	--

※太枠は重点指導事項

教材名		白いぼうし	一つの花	ごんぎつね	プラタナスの木	初雪のふる日	
観点		観点の詳細	場面と場面のつながりを考える	場面の様子を比べて読む	気持ちの変化を読む	登場人物の変化を中心に読む	読んで感じたことをまとめる
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 物語全体の様子をつかむ。	場所 出来事	場所 出来事	場所 出来事	時 場所	時 場所
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物	兵十に気づいてほしい。 （ごん）	登場人物 中心人物	登場人物 中心人物 対人物
3	構成	作品を大きく分ける。 人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	ファンタジーの世界 入り口と出口がある。	戦時中と10年後の戦後 対比	6 場面 大きく前話と後話に分かれている		
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 物語の事件や出来事をつなぐことでまとめることができる。		喜びひとつもないと思っていた お父さんが、ゆみ子の喜ぶ姿を見て、希望を見出す。	ごんのこだわりが成就する話		
5	視点	語り手（地の文を語る人）、会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	語り手 三人称 松井さんに寄り添っている	語り手	視点の転換 ごん→兵十→ごんと視点が小刻みに転換		
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ、オノマトペ 作者の強調したいことが分かる。	人物の心情を読む にこにこ・ちょこんと・ふわっと・じろじろなど	ゆみ子の一つだけ お母さんの一つだけ お父さんの一つだけ	ごんの心内語（動物だから）		
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）		戦争・貧しい・別れ キャッキャッと喜ぶゆみ子	兵十のおっかの死		
8	変容	中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由		喜ぶゆみ子を見て、少しの安心と希望を感じる 花を美しく思う人に育って	「ごん、おまいだったのか。いつもくりをくれたのは。」		
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い 作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。		「ひとつだけ」が多い 「一つの花」は一度だけ 一つの花は一輪のコスモス	ごんのこだわり 「ひとりぼっちはいやだ」に注目する		
10	主題	作者が物語の中で伝えたいことは何か。 自分の経験と比べながら読む。		平和への願い 平和を守ってほしい 家族の愛情	兵十に気づいてもらえてうれしい。		

年間を通して身に付けさせたい読みの力	描写を基に、登場人物の心情を捉える力
--------------------	--------------------

※太枠は重点指導事項

教材名			なまえつけてよ	6月 文学教材なし	たずねびと	やなせたかし	大造じいさんとガン
観点		観点の詳細	登場人物同士の関わりを捉える		物語の全体像を捉える	伝記を読んで生き方を考える	優れた表現に着目して読む
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 物語全体の様子をつかむ。	場所・時		学校帰り、駅 ポスターのちょうど真ん中にわたしの名前を見つけた。		
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	登場人物 中心人物 対人物		中心人物：あや 登場人物：お兄ちゃん、お母さん、おばあさん		
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。場面（いくつかのまとまり）	牧場・近所・部屋・牧場→学校 子馬との出会いと勇太との出会い		8 場面		
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 物語の事件や出来事をつなぐことでまとめることができる。	勇太と親しくなるきっかけをつかめない春花が、紙で折った小さな馬をわたされることで勇太の優しさに気づく		綾がおばあちゃんと出会い、戦争や平和に対する気づきが生まれる話		
5	視点	語り手（地の文を語る人）、会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	語り手（春花の心情に寄り添っている）		一人称「綾」の視点から心情を読む		
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ、オノマトペ 作者の強調したいことが分かる。	「なまえつけてよ」と「名前、つけてよ」の対比		ダッシュ 心内語 情景描写		
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	勇太が贈った折り紙にある「なまえつけてよ。」		おばあさんとの出会い 山場		
8	変容	中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	勇太が「なまえ」とひらがなで読点をつけていない。勇太の優しさや春花に対する気持ちを知る。		名前ではしかなかった人々が、過去に生きていた人とつながった時		
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い 作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	変容のきっかけが題名になっている		ただの名前と綾の変容を関係づけて読む		
10	主題	作者が物語の中で伝えたいことは何か。 自分の経験と比べながら読む。	優しさに気づくこと。「ありがとう」心でつぶやく。		象徴、暗示しているもの。たずねびとが示すものは？		

年間を通して身に付けさせたい読みの力	
--------------------	--

※太枠は重点指導事項

教材名			帰り道	6月 文学教材なし	やまなし	柿山伏	海の命
観点		観点の詳細	視点のちがいに着目して読む		作品の世界を捉える	伝統文化を楽しむ	登場人物の関係を捉える
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 物語全体の様子をつかむ。	帰り道 昼休みの5人の会話		小さな谷川の底 二枚の青い幻灯		
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	律（思っていることが何で言えないのか） 周也（言葉のキャッチボールができない）		五月→十二月 かにの親子 かわせみ⇄やまなし		
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	共通の出来事 昼休みの出来事 それぞれの悩み 二つの話で構成		五月と十二月（対比）		
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 物語の事件や出来事をつなぐことでまとめることができる。	律と周也のそれぞれが自分を見つめなおす		5月と12月で表された二枚の幻灯の対比		
5	視点	語り手（地の文を語る人）、会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	視点によって人物の見え方がちがってくる 律と周也それぞれの視点		冒頭と結末の一文は賢治の視点 幻灯は3人称		
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ、オノマトペ 作者の強調したいことが分かる。	心情を表す言葉 心内語		比喩 オノマトペ 擬人法 賢治独特の表現		
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	情景を表す言葉		やまなしが落ちてくる		
8	変容	中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	律「行こっか。」（はっきりと自分の思いを言う） 周也「うん。」（だまってうなづく）		「二ひきはまるで声も出ず、居すくまってしまいました。」（初めて恐怖を知る） 「おいしそうだね。お父さん。」（自然の豊かさ、恵みを知る）		
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い 作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	律は言いたい気持ちを言えるようになる 周也は人の話を受け止められ話をきけるようになる		やまなし（十二月の出来事を作者が伝えなかった） 五月と十二月を対比することにより、（自然の恵みを知ること）を強調している。		
10	主題	作者が物語の中で伝えたいことは何か。 自分の経験と比べながら読む。	自分と比べて人物像を深くとらえる 成長・気づき		自然界での命のつながり		